

もしも?分析 (反実仮想分析): 最低賃金と雇用

労働経済学 2

川田恵介

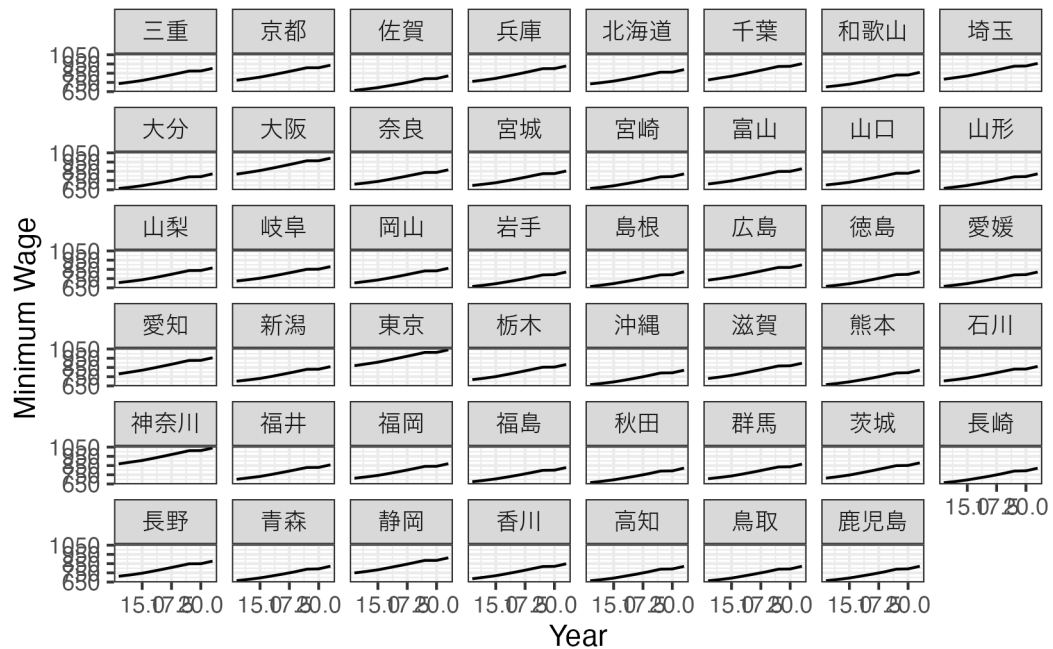
反実仮想分析

- 経済学（や多くの他分野）における分析の根幹: 以下の問いに答えるのに必須
 - ある介入の” 因果効果” とは何か？
 - ある事象の” 原因” は何か？
- もしも?分析が必要

最低賃金

- 雇用関係において、雇用主が支払う最低限の” 時給”
- 決め方
 - 都道府県ごとに異なる
- 労働・経済政策として改めて注目されている

遷移



論点

- 副作用はないか？
- 雇用へ与える負の影響は？
 - “事業者への負担が上昇し、雇用が減るのでは？”
- 最低賃金の因果効果を明らかにすることで回答可能

因果効果

- 非常に哲学的な概念
- Rubin の反実仮想モデル
 - 現状とは異なる”世界”の状況
- 仮に最低賃金をあげなかったときの東京の状況
- 慎重な議論が必要

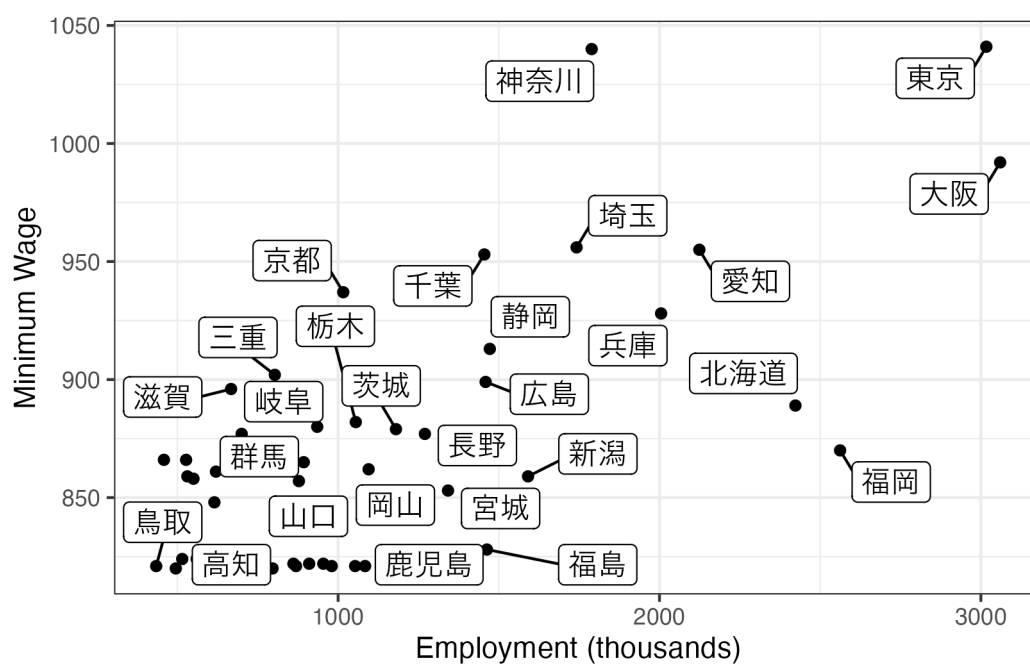
例

- 使用 PC を WindowsOS から MacOS に切り替えた因果効果
 - WindowsUser と MacUsers を単純比較？
- 人類が地球に与えた因果効果
 - 人類が存在しない地球を想像
 - 地球温暖化

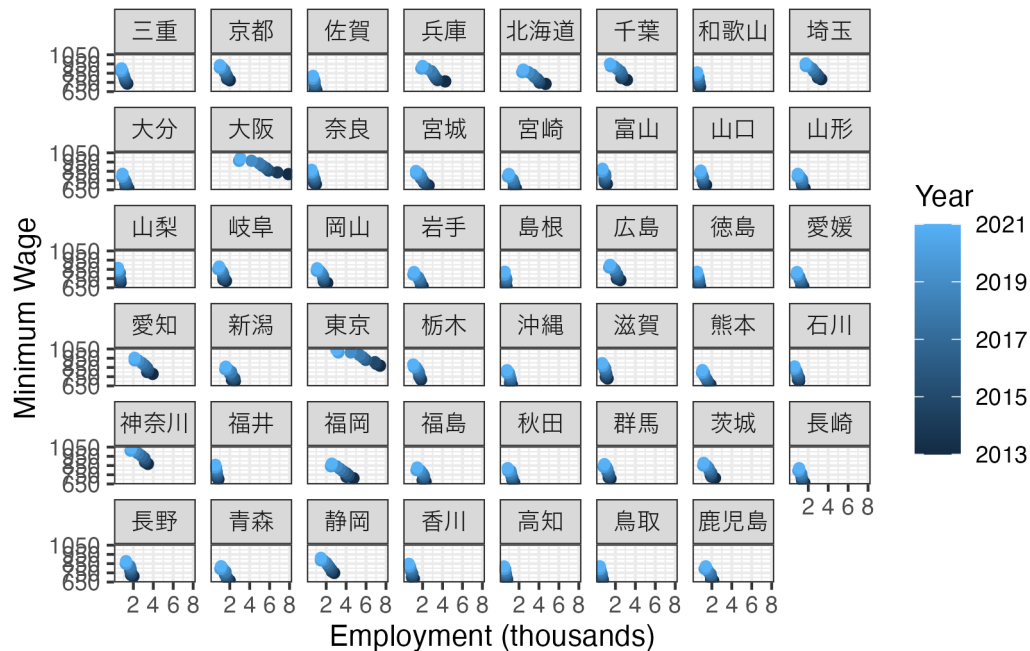
アプローチ

- 単純比較のみは極めて危険
- 理論モデル + 事例 (データ)
 - 論点の洗い出し
 - “将来” 予測
- “実験” + 事例 (データ)

同時点単純比較



異時点単純比較



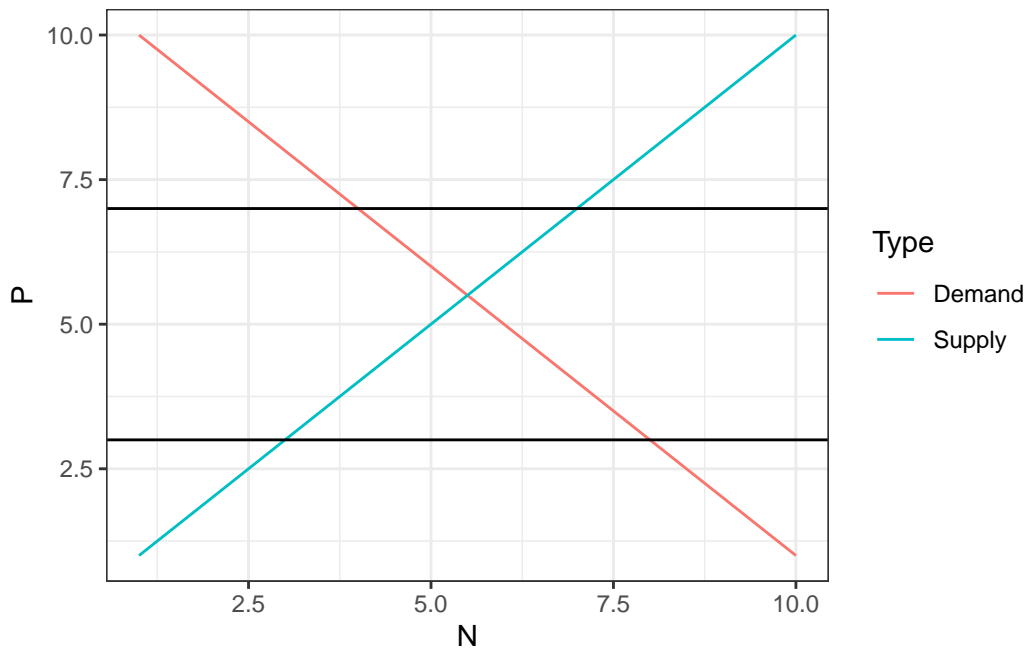
単純比較の問題

- 2021 年の東京・香川比較
 - 最低賃金を引き下げた東京 = 香川であれば、賃金の因果効果
- 東京の 2021・2020 年
 - 最低賃金を引き上げなかった 2021 年の東京 = 2020 年の東京
- であれば OK だが。。。？

需要・供給モデル

- 労働供給: ある賃金の中で働きたいと考える労働者数
- 労働需要: ある賃金の中で雇用したいと考える労働者数
- 均衡賃金: 需要と供給が一致する賃金相場
- 少数の法則: 需給の小さい方で、雇用量は決まる

図示



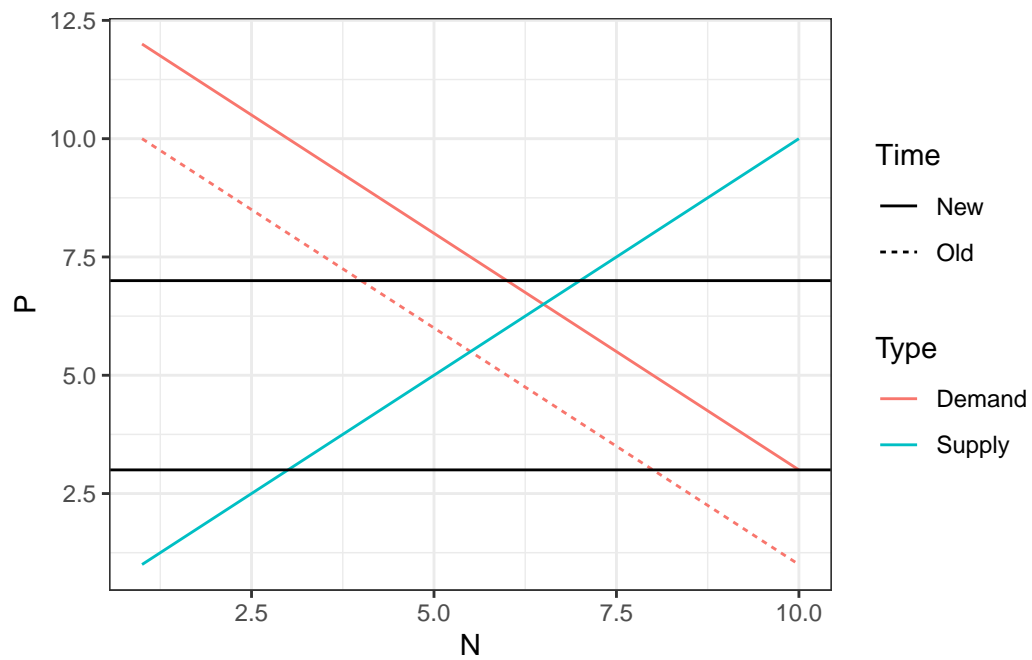
暫定予測

- 均衡賃金よりも最低賃金額が低い場合は、影響なし
- 均衡賃金を上回れば、需要は低下し、供給が増加する
 - 需要 < 供給となり、雇用が減少する
- 増加するとすれば??

波及効果

- 最低賃金による所得増
 - 地域の財への需要刺激
- 雇用が増加する可能性

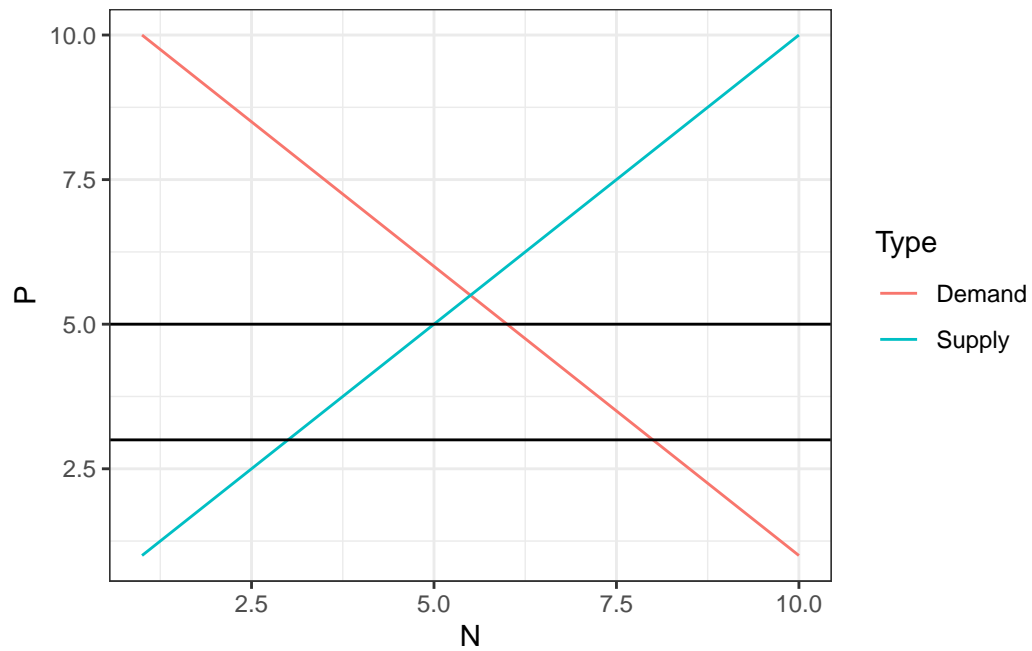
図示



相場操作

- 企業による相場操作ができれば、
 - － 低賃金を押し付ける
 - － 供給の減少
- 最低賃金による賃金増加
 - － 供給増大
 - － 雇用増大

図示



まとめ

- 反実仮想分析 (もしも分析) は”永遠”のゴール
 - 単純比較は一般にミスリード
- 理論的分析は、もしも分析について多くの論点を提供
- あとはデータで検証